

走りも愉しむ大人の移動空間
心地よさとともに

TEANA DEBUT!

運転する愉しさを味わう余裕のある走り

新型ティアナデビュー!



XVシルキーページインテリア



新たなセダンの世界を切り開いてきた日産ティアナが3代目モデルへ生まれ変わって登場。初代の「モダンリビング」、2代目の「おもてなし」と続いてきたコンセプトを受け継ぎながら、快適さに加えて走る愉しさも味わえるセダンへと進化。伸びやかで躍動感のあるスタイルはグローバルセダンの相応しい風格を感じさせ、センスよくまとめられた広い室内は快適な移動を約束してくれる。新開発の2.5lエンジンは満足できる動力性能を確保しながら、新開発のエクストロニックCVTとの協調で燃費を26%も向上。それを支えるシャシーも、新開発のリアサスペンションなどの採用で優れた操縦安定性を実現。見どころ満載の新型ティアナ。その洗練された魅力の数々をお伝えしよう。



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区海岸2丁目1番25号
電話 東京 (03) 3455-5321 大代表

日産
新型
ティアナ
特集号

ドライビングサポート機能

アドバンスドドライブアシストディスプレイ=4インチカラーディスプレイ

ファインビジョンメーター内に取められた4インチディスプレイ内に、さまざまな情報を表示。エコドライブインジケータや燃費情報などに加え、純正ナビゲーションとの連携でBSWやLDWの警告や、コンパス表示、オーディオ情報(曲名など)も表示できる。視線の移動が少なくてすむ位置にあるのでドライバーが情報を認識しやすく、効果的に運転をサポートしてくれる。エコペダルガイドでは燃費のいいペダル操作を指示してくれるのでエコドライブに役立ち、イグニッションオフ時にはエコ運転評価(5段階評価)と平均燃費履歴も表示。積極的にエコドライブを心がける気持ちになり、結果として燃費を向上させることができる。



アラウンドビューと安全装備の充実

安全装備の充実

グローバルセダンとして世界を目指すクルマだけに安全性も抜かりはない。エアバッグは前席はもちろんサイド & カーテンエアバッグも標準装備し、歩行者傷害軽減ボディ、VDCなど先進の安全性を誇っている。また、4個のカメラを使ってクルマの周囲の状況を把握できるアラウンドビューモニターには、画面上に動く物体を検知してドライバーに注意をうながすMOD(移動物検知)機能も搭載。駐車場などでの不意の事故を防ぐことができる。さらに斜め後方から近づくクルマを検知するBSW、車線から逸脱すると警告するLDWなども用意され、常に安全運転をサポート。全方位での安全性を確保している。



TEANA Color Line-up



TEANA主要諸元表

グレード	XV	XL	XE	グレード	XV	XL	XE
駆動方式	2WD			エンジン総排気量 (ℓ)	2,488		
トランスミッション	エクストロニックCVT(無段変速機)			使用燃料・タンク容量 (ℓ)	無鉛レギュラーガソリン・65		
全長×全幅×全高 (mm)	4,880×1,830×1,470			最高出力 kW<PS>/rpm	127 (173) /6,000		
ホイールベース (mm)	2,775			最大トルク N・m<kgf-m>/rpm	234 (23.9) /4,000		
トレッド前/後 (mm)	1,585/1,585			燃料消費率 JCO8モード (国土交通省審査値) (km/ℓ)	14.4		
最低地上高 (mm)	130			最小回転半径	5.7	5.5	
車両重量 (kg)	1,470			タイヤサイズ	215/55R17 94V	215/60R16 95V	
乗車定員 (名)	5			ステアリングギヤ形式	ラック&ピニオン式		
室内寸法 長×幅×高 (mm)	2,130×1,515×1,215(1,195)※			主ブレーキ 前/後	ベンチレーテッドディスク式/ディスク式		
エンジン型式	QR25DE			サスペンション 前/後	独立懸架ストラット式/独立懸架マルチリンク式		
種類	DOHC・直列4気筒						

燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)、整備状況(タイヤの空気圧等)に応じて値は異なります。
[*] ※ガラスルーフを装着した値です。その他のメーカーオプション類の設定など詳しくは販売会社におたずねください。



XV

新開発QR25エンジンで26%の燃費向上

文/田畑 修 (モータージャーナリスト)
写真/日産自動車提供

走りを感じさせる躍動感のあるデザイン



XV

ゆとりと広さ、
質感の高さ、高品質なパーツ

TEANA DEBUT!

風格あるボディーにスピード感を表現



Interior

上質感あふれるインテリアは新型ティアナの特筆できる部分だ。落ち着いた中にもコントラストの効いたコーディネートがなされ、シルキーベージュ+木目調とブラック+メタル調の2種類のカラーを用意。シートも本草、ファブリックともに上質な素材を使い、おもてなしの空間を演出している。広がり感と包まれ感をうまく融合させたインストルメントパネル、ピアノブラック仕上げのパネル類などが質感の高さを思わせ、インナードアハンドルなどに配されるクロームメッキのアクセントも効いている。ファインビジョンの2連メーターは視認性もよく、シンプルなデザインが高級感を醸し出す。メーター中央のアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示も分かりやすい。

広い室内空間—座りやすい後席、後席ニールーム

パッケージング

ホイールベースは先代と変わっていないが室内長は35mm長くなり、居住性は一段と向上している。後席ニールームの拡大、ヘッドクリアランスの拡大、シート形状の見直しなどによって後席の開放感が増しており、3人が無理なく座れるレイアウトとされている。その後席の乗降性に関しても、Bピラーのトリム形状を工夫して足の通るスペースを拡大。足や身体を不自然にひねることなく乗り降りできるのは嬉しい配慮だ。チルト&テレスコピックステアリングおよびシート調整範囲にもこだわり、小柄な女性でもベストポジションを得られるように工夫されている。さらにシフトレバーを約5cmドライバーに近づけ、操作性も向上させている。

スパイナルサポート、助手席オットマン、 本草シートに快適装備

シートの快適性

前席はシートバックが申折れ構造のスパイナルサポート機能付きシートを採用し、上体全体を支えることで背骨の負担を軽減。ロングドライブでも疲れにくい構造となっている。さらに全席とも3層構造としてしっかり身体を支えるとともに、表皮部分は柔らかなめにして不快な振動を吸収。また、ティアナの特徴でもある助手席電動オットマンは位置の最適化により、快適性を向上させている。長時間乗っても疲れにくいシートのおかげで、乗員全員が快適に目的地を目指すことができる。なお、本草の前席シートには座面と背面から暖気および冷気が出るエアコンディショニングシートを採用。温度調整も可能で、夏も冬も快適な状態を保つことができる。



Exterior

全長4880mm、全幅1830mmのサイズを生かしたエクステリアは、存在感を示しながらも伸びやかで若々しく、魅惑的なセダンに仕上げられている。塊感あるボディは滑らかな曲面のハーモニーで流麗なラインを描き、やや全高を抑えたシルエットはシャープで美しい。存在感のあるフロントグリル、鋭い眼光を思わせるヘッドランプ、立体的なフロントフェンダーからボディサイドに伸びるキャラクターラインなど、デザインは大胆だがそのひとつひとつがバランスよくまとめられ、洗練されたセダスタイルを形作っている。深みのある新色ボディカラーもそのフォルムを際立たせており、吟味しながらボディカラーを選ぶ楽しみも味わえるはずだ。

Engineer's Voice

日産自動車
リージョナルプロダクトマネージャー (RPM)
寺田美穂さん



エクステリアデザインはかなり時間をかけ、力を入れて仕上げていますので、そのスタイルのよさをまず見ていただきたいですね。インテリアも、シーマやファガと比べても劣らないレベルで作り込みましたし、素材も吟味しています。いいモノを見て、選んできた方々に満足していただけたらと思います。そして運転席に座ると、大きいボディのわりには見切りがいいことにも気づかれるでしょう。クルマの大きさを分かりやすいように工夫してありますし、アラウンドビューモニターを活用すれば周囲の状況も確につかむことができます。女性ドライバーの方も含め、ダウンサイジングばかりではなく大きいクルマのよさを知っていただきたいですね。

運転のしやすさと静粛性

運転席からボンネットフード端を視認しやすいようにボディ形状などを工夫。ステアリングおよびシート調整と相まって、コーナーや狭い道でも車両感覚をつかみやすく設計されている。また、クルマから発生するノイズや風切り音を抑えるとともに、室内の吸音性を高めることで静粛性を向上。特に加速時のノイズを大幅に削減しており、長い加速が必要となる高速道路走行時でも、車内では普通の会話を楽しむことができる。

リヤマルチリンクサス、アクティブトレースコントロール 胸躍るハンドリング

「運転するのが楽しくなるセダン」を目指し、シャシー性能や制御デバイスも吟味。新設計のリアサスペンションはマルチリンク形式を踏襲しながらも、コネクティブッシュと呼ばれるゴムブッシュを追加し、横剛性に加えて適切なトー角度を確保。剛性感やレスポンスを高めると同時に、乗り心地の悪化を防いでいる。また、新採用の「アクティブトレースコントロール」は、コーナリング時に内輪に絶妙なブレーキをかけてアンダーステアを防ぎ、狙い通りのラインをたどる楽しさを提供してくれる。ブレーキのフィーリングを向上させるためにペダルストロークや踏力も最適化されており、同乗者に不安を与えることなく的確な制動でクルマを操ることができる点も見逃せない。

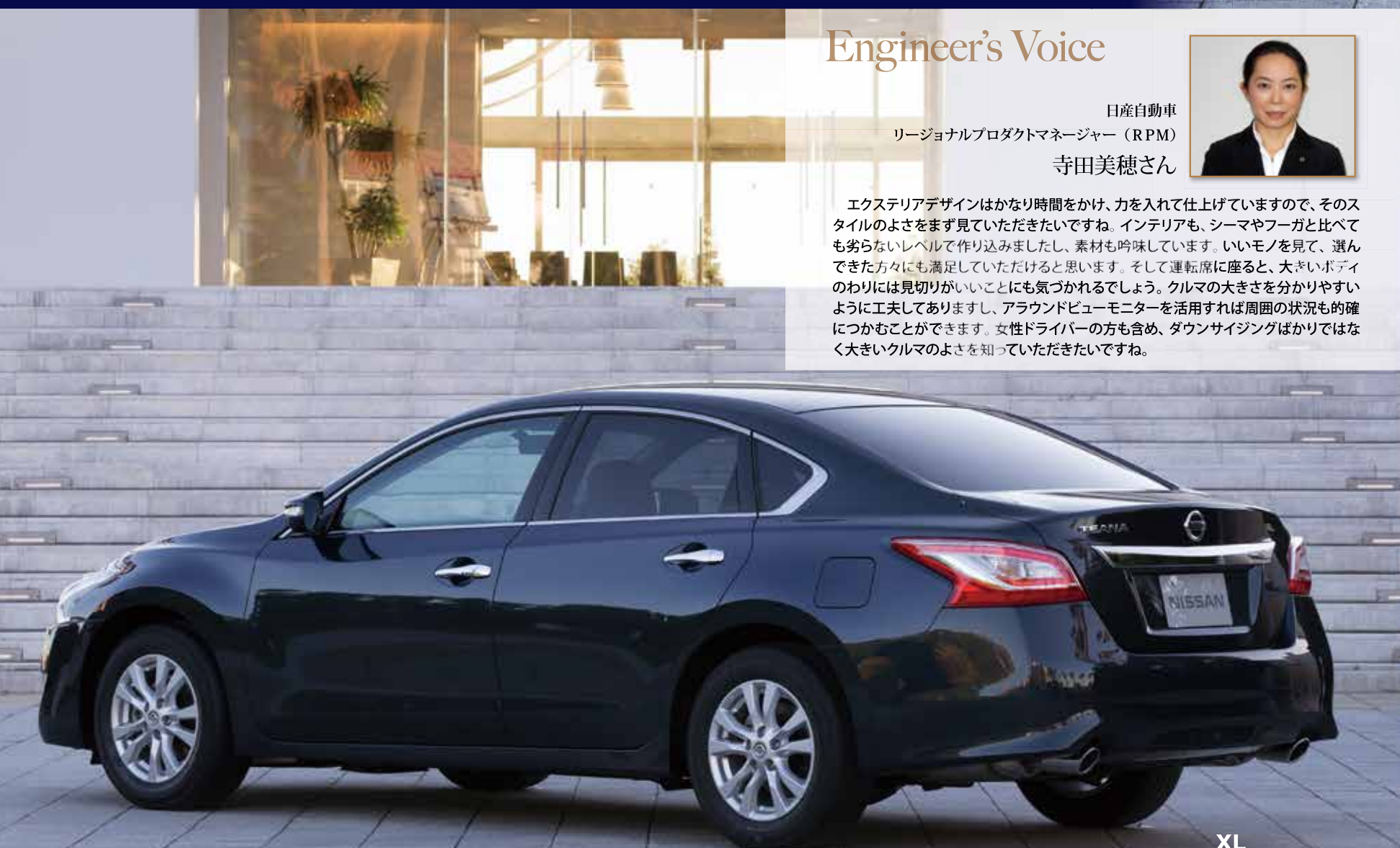
ユーティリティと収納

低くスポーティなシルエットとしながら、トランクルームなどの収納スペースは全く犠牲となっていない。トランクルーム容量は先代と同じ506ℓが確保され、9インチのゴルフバッグ4セットを積み込むことができる。さらにトランクルー機構により長尺物の運搬も可能だ。室内の収納アイテムもグローブボックス、センターコンソールボックスをはじめ、小物収納スペースを豊富に設置。常に室内を整理整頓しておくことができる。



新開発エンジン、
CVTで燃費26%アップ
新開発エンジン

新設計のQR25DE型 2.5ℓエンジンは、燃焼効率や排気効率の改善でより中低速トルクを向上。通常走行域での力強さを高め、高速道路はもちろん、一般路でもキビキビした走りを楽しむことができる。組み合わせられるエクストロニックCVTは約80%のパーツを新規開発して性能を向上。オイルポンプの小型化などによって軽量化を図り、摩擦抵抗は40%も低減。さらにギア比の範囲を拡大して加速性能を高めるとともに燃費向上にも貢献。その結果、先代モデルに比べて26%もの燃費向上を実現している。また、新型CVTは3種類の走行モードが設定され、通常のドライブモード以外にも低燃費運転をサポートするECOモード、スポーティな走りを楽しめるDsモードをチョイスできる。



XL



QR25DE エンジン